

住友ベークライト株式会社 2024年3月期 決算説明会  
主な質疑応答議事録

日時 : 2024年5月13日(月) 15時00分 ~ 16時30分

説明者 : 代表取締役社長執行役員 藤原 一彦

質疑応答では各部門担当役員による補足説明あり

**【全社的な事項】**

Q : 今期業績予想を含む新中期経営計画における為替前提は？

A : 1ドル=149円としている。

Q : 配当性向の目安を40%に引き上げた背景

A : これからの成長投資と不安定さの増していく事業環境の中で堅実な財政状態の維持に必要な資本配分について議論を重ねて決断した。

Q : 2026年度のROE目標を9%と定めた理由

A : 現在のROE水準と資本コストを考慮し、まずはクリアすべき数値と考えている。

**【半導体関連材料セグメント】**

Q : 半導体封止材の今期の見通しについて。

A : 前期より約10%の数量増を見込んでいる。前期と同じくモビリティの伸長がけん引していくが、メモリの回復に加え、下期からの民生用途の一段の回復に期待している。

Q : モビリティ戦略3製品の2025年度計画が上方修正されたが、何がけん引したのか？

A : 3製品それぞれが増加し、けん引している。

Q : AI関連製品はどのように伸ばしていくのか？

A : 既に実績化しているものもあるが、AI領域を強化領域として、当社の強みである外部協業も活用し、材料開発、製品ラインナップの拡充を進め、様々な製品でデファクトスタンダードを勝ち取っていきたい。

**【高機能プラスチックセグメント】**

Q : 今期業績予想の見方について

A : 前期の下半期より市場の在庫調整がかなり落ち着き、民生、自動車用途ともに徐々に回復してきている。航空機も堅調に推移する。

Q：強化領域の製品比率が2026年から2030年にかけて大きく増えるのはなぜか？

A：強化領域として電動車・半導体・航空機の3領域に力を入れていく。新しい開発案件が増えており、実績化されるのが2030年頃と見ている。

**【クオリティオブライフ関連製品】**

Q：新中計期間3年に渡り、利益率、額ともに伸長する計画であるが、新たな取り組みなどがあるか？

A：今期は一部不採算製品の整理等もあり踊り場的な状況になるが、翌期以降、特にフィルム・シートやヘルスケア関連製品の開発案件の上市が加速するので、持続的に成長していく。

以上